

総合的な学習の時間学習指導案

北広島町立川迫小学校

指導者 砂原正樹

- 1 日 時 平成26年10月29日(水) 第5校時 13:40~14:25
- 2 学 年 第3学年 女子2名 計2名 第4学年 男子2名 女子4名 計6名
- 3 単元名 「川戸の自然調査隊」～川戸の自然にふれ、お宝を見つけよう～
- 4 単元について

○児童観

本学級の3年生は昨年度から野鳥の観察、また、4年生は可愛川の生き物調査を通して川戸の生き物や自然環境について関心をもってきている。1学期には「もっと知ろう、川戸の自然・川戸のお宝を見つけよう」をテーマとし学習に取り組んできた。特に、外部講師の方との交流を通して川戸の環境も大きく変わってきていることを知った。特に、今まで観察できた鳥が本年度はいなくなったことや、魚の産卵場所が減ってきていること等も知った。反面、川戸には希少な生き物が生息できる環境があることや、ビオトープをつくり生態系を守ろうとする取組が行われていることも学んできている。現在、児童が調査している内容は、モリアオガエルの成長観察(4名)・カエルの種類調査(2名)・サギの生態(1名)・魚や水生生物の調査(1名)である。調査や外部講師を招いての学習を通して、身近な生物や環境との関わりについて関心や課題意識をもってきている。今後、調べたことを、比較・分類・関係づけをしたり、学習したことを生活の中で活用したりすることが課題となる。

○単元観

本単元は、本校の特色を生かした「ふるさと学習」のもと、地域の自然を学びの場として学習を進めていく。「もっと知ろう川戸の自然・川戸のお宝を見つけよう」という共通課題のもと、地域の自然にふれ環境に興味をもつ中で課題を見つけ、探究することを通して「自ら学ぶ力」「学び方やものの見方の習得」「問題の解決に主体的・協同的に取り組む力」「自己の生き方を考える力」を育てていきたいと考え、本単元を設定した。特に、他地域の見学や観察を取り入れ、比較・関連付けることで思考を深めたい。また、地域や外部講師との交流を深めることで、しっかり郷土に学びたい。このことを通して、川戸の自然や地域社会に対する見方や考え方を深め、郷土を大切にしていこうとする心情を育てていくことができると考える。

○指導観

研究主題「気づきを深め 自ら考え 表現する 子どもの育成 ～郷土に学び、探究的・協同的な学習を通して～」にせまるためにも、次のことを意識しながら指導に当たっていく。

「探究・協同・活用」(さぐる・つながる・生き方に学ぶ)をキーワードにして、

- ・活動や情報をもとに、自ら考え判断し、地域などの環境(人・もの・こと)に関わりながら考えを深めていく。
- ・調査・体験を通して得た情報を整理・分析し、自分の考えを深化させていく学習活動を展開する。
 - ①地域の環境(人・もの・こと)にかかわり課題をもつ(つながる)
 - ②追究する(さぐる)
 - ③仲間と交流し考えを広げ・深める(つながる)
 - ④結論・表現方法を考える(まとめる)

⑤自分にできることを実践する（生き方に学ぶ）

本小単元（三次）においては、次の点に留意する。

【つながる（課題設定）】

芸北地域の自然観察を通して、川戸と芸北地域の自然について比較し、もっと調べてみたいことを出し合い新たな課題を設定していく。

【さぐる（情報収集）】

現地での調査や外部講師の方にインタビューするなどの体験活動や、インターネット・パンフレットの活用などを通して情報を収集させる。

【さぐる（整理・分析）】

環境保全に向けて取り組んでいる人たちの工夫や努力を伝えるという目的をもち、多くの情報から必要な情報を整理・分析させたい。また、比較して情報の共通点や相違点を明らかにする活動も取り入れる。

【まとめる（表現・発信）】

「川戸のお宝を見つけよう」のテーマのもと学習してきたことを、地域の方にも再認識してもらうにはどのように表現したら分かりやすいか、他教科の学習と関連付けながら工夫していく。

【つながる（協同的な学習）】

様々な方法で得た情報をお互いに共有し活用できるようにする。整理・分析やまとめの学習活動においても友だちと協力しながら思考を深めていくことができるよう思考ツールを活用する。また、単位時間においても、付けたい力を明確にし児童と共有していく。

5 単元の目標

○川戸の自然（環境）について、探究的な活動（他地域との比較も含む）を通して追究する方法を身につけ、問題解決する力を育てる。

○問題解決や探究活動の学習過程の中で主体的・創造的・協同的に取り組む態度を育てる。

○学んだことから、自己の考え方や生き方を考えることができるようにするとともに、環境や地域を大切にしようとする心情と態度を高める。

6 単元の評価規準（小単元 3次）

	A 主体性	B 学習方法	C 他者との協同	D 自己の生き方
単元の評価規準	① 身近な環境に目を向け、特徴や変化について調べている。 ② 川戸のよさを伝える方法を考えている。 (課題設定)	① 川戸と芸北の自然について調べた結果を分析し、まとめている。 ② 川戸と芸北の比較を行うことで川戸のよさに改めて気づいている。 (思考・判断力)	① 異なる意見をもった友だちの考えを受け止め、友だちと協力しながら自分の考えを深めている。 ② 礼儀正しく地域の方やゲストティチャーと関わる。 (表現力)	① 川戸のよさについて自分なりの考えをもっている。 ② 学習したことを生かして、自分のできることから実践しようとしている。 (生活にいかす)

7 単元指導と評価の計画（全70時間）

次 (時間)	小単元	小単元の目標と主な学習活動 ◎ねらい ○学習活動	評価の観点 () 評価方法
一次 (14時間) 4・5月	川戸の自然にふれよう 川戸の自然調査隊	◎川迫小学校周辺や可愛川探検で生き物の様子について調べることができる。 ○学校周辺の小動物や植物を見付ける。 ○可愛川の水生生物や魚の種類を調査する。 ○昨年度の学習と関連させながら、トンボの成長について考える。 ※魚の飼育観察を継続する。 ※トンボの発見記録を残す。	A① (発言・行動・ワークシート)
二次 (12時間) 6・7月	もっと知ろう川戸の自然	◎専門家の話を聞き、調べてみたい課題を決めることができる。 ○野鳥の観察会を通して、川戸の自然環境と野鳥の生態との関係を考える。 ○ビオトープ作りの取組を通して、川戸の生き物の変化を知り自分たちでできることを考える。 ※サギの生態について継続観察をする。 ※カエルの種類・分布について調査する。 ※モリアオガエルの飼育観察とビオトープへ返す取組をする。	A① B② D② (発言・行動・ワークシート)
三次 (14時間) 9・10月	川戸のお宝を見つけよう 本時(7/14)	◎川戸と芸北の自然について調べて分かったことを比較し、その結果をまとめることができる。 ○芸北の自然観察を通して、川戸と芸北の自然を比較し、川戸の自然について改めて見直す。 ○八幡湿原を守る取組に学び、自分たちでできることを考える。 ○中間報告会を生かしてさらに自分が知りたい課題を見付ける。 ※芸北の自然観察会に参加する。 ※学習発表会で中間報告をする。	B① (発言・行動・調査内容)
四次 (12時間) 11・12月	川戸の自然「お宝マップ」をつくろう	◎調べたことを分かりやすく伝える方法を選んでまとめることができる。 ○調べたことを、相手意識をもつて伝えることができるようにまとめる。 ○「お宝マップ」の内容や構成について検討する。 ○調べたことを整理し、資料を効果的に活用したり分かりやすい文章にまとめ、調べたことを整理する。 ※外部講師を招き、昔の可愛川(水田・溝)や里山の様子や生き物についての話を聞く。	C① (発言・行動・まとめ資料)

五次 (14時間) 1・2月	活動報告会を開こう	◎これまで学習したことを，学校や外部講師の方に報告する会を開くことができる。 ○伝え方を考えながら，練習をする。 ○資料を効果的に活用して説明をする。 ○感想や意見聞き，今後の活動への見通しをもつ。 ※「お宝マップ」の活用について検討する。	A② C① (発言・行動・発表資料)
六次 (2時間) 3月	学習を振り返ろう	◎調べたり体験したりする中で改めて感じた川戸のよさについて考えたり，話し合ったりすることができる。 ○ファイルやレポート等で確認しながら，これまでの学習を振り返る。 ○取組の成果を明らかにし，付いた力や成長を確認する。 ※文集(感想)を作成する。	D① (発言・行動・ワークシート)

8 本時の展開

(1) 本時の目標

○八幡湿原と川戸の自然について調べたことを比べて，感想やアドバイスを出し合いながら協同して学習内容を深めたり，新たな課題を見付けたりする。

(2) 本時の評価規準

○八幡湿原と川戸の自然について調査したことを比較し，類似点や相違点をまとめ分かりやすく発表している。

○友だちの意見を自分の考えと比べながら聞いて，新たな課題を見付けようとしている。

(3) 準備物

付箋紙 調査報告書

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (◇) 個に応じた指導の手立て (◆)	評価規準 (評価方法)
1 芸北の自然観察で分かったことを振り返る。	◇自然環境を守る取組であることを確認する。	
2 本時のめあてを確認する。		
川戸と芸北の自然やそれぞれの環境を守る取組から，さらに調べてみたいことを考えよう。		

<ul style="list-style-type: none"> ・「比較し関連付ける力」 ・「課題を見付ける力」 	<p>◇本時の学習においてどのような力をつけるか、活動の意味を明確にする。</p>	
<p>3 川戸や八幡湿原を守る取組の内容や願いを発表する。</p>	<p>◇調査した内容を、理由や根拠を明らかにしながら発表させる。</p> <p>◆本時までの報告メモをもとに自信をもって発表できるよう支援する。</p> <p>◇聞く側には、アドバイスや感想をメモさせる。</p>	<p>八幡湿原と川戸の自然について調査したことを比較し、類似点や相違点をまとめ分かりやすく発表している。</p>
<p>4 発表をもとに意見交換をして、追究できる課題があるか検討する。</p>	<p>◆必要に応じて、次のような外部講師の話を想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この何十年で生き物の種類や数が減ってきた。 ・魚が産卵する場所も減ってきた。 ・一度壊された自然を取り戻すには何年もの時間がかかる。(一踏み十年) ・芸北と川戸の自然を比べて見ることも大切である。 ・川戸にはまだまだたくさんの宝がある。 <p>◇意見交換を通して次の点は気づかせていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地域にある溝や谷川のことをもっと調べてみる。どこにどんな生き物(カエル・鳥)が生息しているか継続調査すること ・治水工事・河川工事、圃場整備等による産卵場所や生物の減少、反面希少生物が生息できる環境が残っていること ・身近な溝や谷川の保全やビオトープの整備等できることは足元にあること 	<p>(発言)</p> <p>友だちの意見を自分の考えと比べながら聞いて、新たな課題を見つけようとしている。</p> <p>(ワークシート)</p>
<p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>◇本時のめあてについて振り返り、自己評価・相互評価をするとともに、次時の学習への期待をもたせる。</p>	

9 板書計画

川戸の自然調査隊 ～川戸の自然にふれ、お宝を見つけよう～

④ 川戸と芸北の自然やそれぞれの環境を守る取組から、さらに調べてみたいことを考えよう。

○比べて考える力

○調べたいことを見つける力

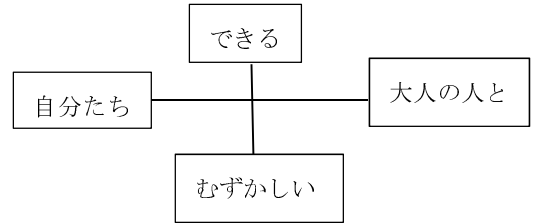


共通する願い：自然（生きも）を守り大切にする。

- ・ ぜつめつをふせぐ。(湿原・ピオトープ)
- ・ そこにしかない生き物 (川戸・芸北)

⇒ ボランティア ぱっきん (よびかけ)

◎ さらに調べてみたいこと



⑤ ○身近なところから、環境を守る取組はできる。
・何ができるか、もっと調べたり聞いたりしよう。
・今の考えを発表会で伝えよう。(アピール)

⑥ ・比べて考え、調べたいことを見つけることができた。